

第 408 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 7 年 2 月 4 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] シャンソン姉さんのハナタにハリガトネ～
[放送日時] 令和 7 年 1 月 2 日 8 日 16 日 30 日 (木) 21:30～22:00
[出演者] シャンソン姉さん
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 加藤裕治 委員 小野晃司 委員 土屋維子
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明
5. 事務局報告 ○ 2024 年度 第三四半期の報告と第四四半期の現状の報告
6. 番組審議 [番組名] シャンソン姉さんのハナタにハリガトネ～
[放送日時] 令和 7 年 1 月 2 日 8 日 16 日 30 日 (木) 21:30～22:00
[出演者] シャンソン姉さん
[番組内容] シャンソンを歌ったり歌わなかったりする姉さん…
シャンソン姉さんの独特なトークが展開する 30 分。
一度聞いたらクセになっちゃう 5 回限定のプログラム。

[聴取・合評での主な意見]

土屋委員

新鮮で良い番組だと思う。お笑いが主ではあるが、シリアスもある。シャンソンのコーナーで音楽を前面に押し出しているのも珍しく、面白い。また、番組の内容もトークもくどさはなく、次回の放送はどういう展開なのか…と楽しみにできる、程よさがある。番組内のコーナーは、5 回限定の中で、トライ&エラーがあると思うが、回を重ねるごとに可・不可がわかってくると思う。シャンソン姉さんはお笑いとしリアスを兼ね備えパーソナリティーとしての広がりを感じさせてくれて好感が持てる。今後の可能性が期待でき応援したくなる。また、聴き手が好きだと感じた時には、十分に「押し」の対象になるキャラクターなのではないか。上手、パーフェクトで有り過ぎない、程の良さが今の時代に合っていると考える。

小野委員

予備知識なしで初めて聴くと、キャラクターの強さが耳につくが、すぐに、その辺りが気にならない奥深さが伝わってくる。シリアスを笑い飛ばしても嫌味にならない所が良い。番組内に登場する笑い係の兄との会話から、シャンソン姉さんの根底に前向きな考えが満ちていることがわかる。これまで築き上げてきた事柄に様々な疑問が投げかけられている今の世の中に、シャンソン姉さんのような「ケセラセラ＝（前向きに）なるようになる」という考えは、必要だと思われる。

加藤委員

とても面白かった。シャンソン姉さんは、キャラクターをしっかりと持ちながらある部分崩れているところも垣間見えて、つかみどころがないところが良い。トークも脈絡がないように見えて最後にはしっかりまとまっている。はっきりと、ここが魅力だと言えない所が面白い。番組構成は、期間限定ということや30分という時間を考えればまずは、これで良いのではないか。長く続けるのであれば、コーナーの今後の展開、笑い係の兄との絡み方を考えるとよいのではないだろうか。

角田副委員長

シャンソン姉さんの個性や番組の構成の良い点は、各委員の指摘の通りであると思う。特徴のあるパーソナリティーなので今後に期待する所も多いが、例えばシャンソン（音楽）の知識を中心にしてくのか、音楽は一旦置いてトークに集中するのかを一度考えてみてはどうだろうか。“音楽”ならば、自分の感じた曲のよさをしっかり語り、“トーク”ならば、言いたい内容の掘り下げや事前準備を行うとよいと思う。

木宮委員長

番組の面白さもあり、限定5回からの番組延長（4回継続）は各委員から評価いただいたと思われる。回数限定番組だからこそその力の入れ方に、面白さを感じるが、長く続ける番組となった時には、少し力を抜いたトークも聴ける、また、本人もできると思うので、それが、新しいキャラクターとして、次のステップに向かう可能性につながるのではないだろうか。番組のレギュラー化は有りだと思う。今後の活躍次第では、TVでは現在の芸を一方ラジオでは本音を前面出していくという方向も可能であると思う。

会社サイド

ラジオは“押し”文化に支えられている側面もあるので、“押し”対象になるパーソナリティーが必要であると考えている。また、聴いていて実生活には必ずしも役には立たないものの、面白いトーク、SNSとは違い誰も人を傷つけないトークというものもラジオには大切だと思う。一芸に秀でたパーソナリティーを今後も大切にしていきたい。

以上

次回開催日 令和7年3月4日(火) 11:00～13:00を予定

番組審議会委員長

木宮敬信